

ワイドボディキット	15775000円
フロントスポイラー	1672750円
ラジフセットトリプルビーム	22万5000円
デュアルヘッドライト	52万5000円
エキゾーストシステム	3755000円
エキゾーストスリッパセット	979750円
monoART (26820x9.0)	



A_R_T G STREETLINE

REPORT ● 中三川大地 (Daisuke Nakamigawa) PHOTO ● 佐藤正巳 (Masami Sato)

都会派Gモード。

12 灯ものライトを使った自己表現の申しぶんないフロントマスクがARTらしさを物語る。デイライトに始まり、前後フォグやウィンカー、バックランプなどの処理はとりわけユニークで、ARTの顔を見事に表現している。これこそART流Gクラスの最終形態にして、究極のモディファイスタイルだ。

ドイツ生まれのARTは、無骨なGクラスを都会的に仕立てた第一人者であった。そのアプローチはSUVブームに乗って世界中に飛び火し、幾多のチューナーがその後を追ったが、今見ると、さすがARTには元祖と呼ぶだけの個性がある。

この個性は、Gクラス・ストリー



フロントバンパーにはマルチファンクション機能を使うことで状況に応じた点灯が可能なLEDデイライトを搭載する。マフラーはサイドステップ下に左右3本ずつ、合計6本出しとなる。VBを引き立てる鋭く伸びるサウンドは迫力満点だ。リヤビューはバックランプやリヤフォグの処理がユニークで、スペアタイヤはこの個体だけのオリジナルだ。メッキモールはブラックアウトされ黒一色に仕上げている。



トラインのワイドボディキットをまとっている。HIDやLEDを駆使したオプティカルチューニングが目を引き、精度を出すために丹念に作り込んだフェンダー類や、ライト類の華やかさを引き立てるため敢えてブラックアウトしたモール類など、丁寧な作り込みがキモである。小技と大技を融合させたからこそ、このような唯一無二な迫力が生まれた。

ホイールは美しいARTを体現するような「monoART」の22インチだ。ワイド化されたフェンダーにマッチするよう、45mmのスペーサーを使ってベストなクリアランスに仕上げた。このホイールはワイドではない標準ボディにはもちろん、

18インチから22インチまで用意されることで、メルセデスの各車種に対応する包容力を持つ。紛れもないARTの代表作である。

ボディサイドのステップ下に置かれる6本出しのマフラーもARTのもの。この個体のベースはG550だが、AMGを凌ぐほどの闊太いサウンドが周囲を震わせる。

また、Gクラスのタフなイメージはそのまま継承されているので、普段使いで気を遣う場面は多くない。見た目の迫りに圧倒されつつも、ラフロードから高級ホテル、ネオン街まで、どこへでも乗り込んで隠せず走れる魅力がART流Gクラスの神髄である。

洗練のタフネス。

メルセデスを題材に、自らの感性と技術を注ぎ込んだARTが、昨今、新たなアプローチとして取り組むのがレクサスやランドクルーザーなどトヨタ系のプログラムだ。かねてから日本に注目してきた彼らが、このたび日本主導で進めた一例がこのランドクルーザーである。

もともとランドクルーは、そのタフネスさが世界中で認められる国際派だった。また、現行型は世界的にはレクサス・チャレンジャーとして販売されるなどプレミアム性も身につけている。その観点から見るとGクラスに近い存在感を、ARTは見逃さなかったのだ。

基本はヨーロッパアンメイクの王道をいく。ツインフォグが備わるフロントバンパーや、マークレスのスポーティグリップ、ジャストサイズの22インチが好ましい「monoART」のポリッシュホイールなど、既存のクロカンイメージを引きずるような姿はそこにはない。ホイールにはカスタムオーダープランの用意があり、ボディ同色化するなどオリジナリティを出すこともできる。

これらエアロパーツの素材となるFRPはドイツ製の剛性の高いものが使われているという。触れてみると、確かにぶ厚くてタフな印象がある。実際に他社FRP製品に比べるべくも無い。また、ランクルのイメージにはびつたりだ。また、リヤのルーフスポイラーにはメルセデス純正のハイマウントストップランプが埋め込まれるなど、メルセデスチューナーならではの工夫も見られる。マークレスグリップは純正装備される小型カメラを活かすように設計され、こうした機能を犠牲にしないARTのポリシーは、ランドクルーにも受け継がれている。

現在、エキゾーストシステムなど機械系パーツの準備も進められている。日本主導であるがゆえのキメ細かく迅速な開発体制がカスタマーにとって心強いと共に、今後の展開にも期待できる。まさにSUV界の注目株と呼べる逸品である。



フロントスポイラーとリヤスカートが車体全体の安定感を引き立てている。サイドスカートはノーマルだが、見事に全体が調和している。なおベース車は上級グレードの「GX」。

控え目な音量ながらもどこも豪華な音質を実現させるサウンドチューニングが施されたART製エキゾーストシステムが装着される。



厚手のフロントスポイラーにはARTらしいツインフォグが、これは現時点ではまだ試作品。ホイールは「monoART」の22インチ。

A_R_T LAND CRUISER

REPORT ● 中三川大地 (Daisuke Nakamigawa) PHOTO ● 佐藤正巳 (Masami Sato)



フロントスポイラー	10万800円
リヤスカート	12万1800円
ルーフスポイラー	15万8400円
スポーツグリップ	8万1900円
エキゾーストシステム	26万3500円
monoART 1 (径φ22×10.0J)	9万9750円〜